

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-	3.4
<b>1.1 騒音</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>				<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		開口部はT-2性能を持つアルミサッシ。		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35	-	-	2.6
<b>2.1 室温制御</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.4</b>	0.25	-	-	3.4
<b>3.1 昼光利用</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		2階事務・研究居室における昼光率2.45%		4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		南側居室の開口部に庇を設置		4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.4</b>	0.25	-	-	4.4
<b>4.1 発生源対策</b>				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		ほぼ全ての建材にF の認定品を採用し、かつホルムアルデヒド以外のVOCにも配慮した材料を採用している。		5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		2階フロア全体面積の1/15以上の自然換気可能な窓の設置。		4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口と排気口は6m以上離して設置。		4.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		1階に喫煙室を設置し、壁は天井裏まで区画している。換気設備は室内で完結させ、給気・排気となるよう風量を調整する。		5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	3.6
<b>1 機能性</b>				<b>3.9</b>	0.40	-	-	3.9
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		2階執務エリアの1人当たりの執務スペースの面積は10.5㎡/人。		4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		執務室の天井は2.7mかつ、どの部屋にも開口部を設けている。		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		2階執務エリアの中央と窓際にリフレッシュスペースを設置。		5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		透明性・機能性をテーマとし、シンプルかつ維持管理・耐薬品性能にも配慮した内装計画。		5.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い内装材の選定。外部サッシには水切りを設置。風除室は電気錠対応の自動ドア。外部の鉄骨部材は溶融亜鉛めっき。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		充分な面積の清掃用具庫、廃棄物置場を確保。清掃・維持管理に配慮した設備計画。外壁の維持管理の安全にも配慮。		4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.3</b>	0.31	-	-	3.3
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>3.4</b>	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		建物全体に免震装置を採用している。		5.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.2</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		事務・研究エリアの内装仕上げは耐用年数は20年以上。		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水配管は塩ビラインング鋼管、排水配管は塩ビ(耐火二層管)を使用。Eに該当する配管なし。		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4	信頼性		3.2	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	4.0	0.20	-	-	
		地下室を設置しておらず、浸水の危険はない。	4.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性		3.6	0.29	-	-	3.6
	3.1	空間のゆとり	4.6	0.31	-	-	
		1 階高のゆとり	5.0	0.60	3.0	-	
		2 空間の形状・自由さ	4.0	0.40	3.0	-	
		階高は最小で3,900mm 壁長さ比率 = 0.198	3.0	0.31	3.0	-	
	3.2	荷重のゆとり	3.3	0.38	-	-	
	3.3	設備の更新性	3.0	0.17	-	-	
		1 空調配管の更新性	4.0	0.17	-	-	
		2 給排水管の更新性	3.0	0.11	-	-	
		3 電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-	
		4 通信配線の更新性	3.0	0.22	-	-	
		5 設備機器の更新性	4.0	0.22	-	-	
		6 バックアップスペース					
		屋上設備スペースにバックアップスペースを確保している。					
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	3.7
	1	生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0
		既存植栽を極力残し、自然環境保全、景観の維持に努めた、建物のスケール感の分節・修景・色彩計画など景観に配慮。	4.0	0.40	-	-	4.0
	2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.30	-	-	4.0
	3	地域性・アメニティへの配慮	4.0	0.30	-	-	4.0
		3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0	0.50	-	-	
		敷地内の松をカウンターとして再利用、1階の講習室、資料庫、共通実験室は外部に開放、バルコニー・庇による中間領域の形成。	3.0	0.50	-	-	
		3.2 敷地内温熱環境の向上					
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.6
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
	1	建物の熱負荷抑制	5.0	0.30	-	-	5.0
		南東面開口部は庇、Low-Eガラスにより、熱負荷低減に努めた。	3.0	0.20	-	-	3.0
	2	自然エネルギー利用	3.0	0.50	-	-	
		2.1 自然エネルギーの直接利用	3.0	0.50	-	-	
		2.2 自然エネルギーの変換利用	4.4	0.30	-	-	4.4
	3	設備システムの高効率化	4.4	0.30	-	-	4.4
		高効率照明、共用部人感センサー発停を採用している。	4.4	0.30	-	-	4.4
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	3.0		-	-	
		集合住宅の評価	3.0		-	-	
	4	効率的運用	3.0	0.20	-	-	3.0
		4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-	
		4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.6
	1	水資源保護	3.4	0.15	-	-	3.4
		1.1 節水	4.0	0.40	-	-	
		過半の水栓に節水こま付を使用、節水型大便器及び感知FV一体型小便器の設置	3.0	0.60	-	-	
		1.2 雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.67	-	-	
		1 雨水利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	
		2 雑排水等利用システム導入の有無	3.6	0.63	-	-	3.6
	2	非再生性資源の使用量削減	2.0	0.07	-	-	
		2.1 材料使用量の削減	3.0	0.25	-	-	
		2.2 既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.21	-	-	
		2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.21	-	-	
		2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	
		2.5 持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.25	-	-	
		2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					
		内装は仕上は容易に躯体と分別可能な方式としている。またOAフロア、可動間仕切りといった再利用可能なユニット部材を採用。					
	3	汚染物質含有材料の使用回避	3.6	0.22	-	-	3.6
		3.1 有害物質を含まない材料の使用	5.0	0.32	-	-	
		タイル用接着剤、シーリング材、エマルジョンペイントに有害物質を含有しない建材を選定し、MSDSで確認する。	3.0	0.68	-	-	
		3.2 フロン・ハロンの回避	-	-	-	-	
		1 消火剤	3.0	0.50	-	-	
		2 発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
		3 冷媒					
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.3
	1	地球温暖化への配慮	3.7	0.33	-	-	3.7
		LCCO2排出量が標準に比べて80%程度	3.0	0.33	-	-	3.0
	2	地域環境への配慮	4.0	0.25	-	-	
		2.1 大気汚染防止	3.0	0.50	-	-	
		ガス瞬間湯沸器は低Nox型を設置	2.3	0.25	-	-	
		2.2 温熱環境悪化の改善	-	-	-	-	
		2.3 地域インフラへの負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
		1 雨水排水負荷低減	2.0	0.33	-	-	
		2 汚水処理負荷抑制	2.0	0.33	-	-	
		3 交通負荷抑制	2.0	0.33	-	-	
		4 廃棄物処理負荷抑制					
	3	周辺環境への配慮	3.2	0.33	-	-	3.2
		3.1 騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	
		1 騒音	3.0	1.00	-	-	
		2 振動	-	-	-	-	
		3 悪臭	-	-	-	-	
		3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	
		1 風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
		2 砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
		3 日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
		3.3 光害の抑制	4.4	0.20	-	-	
		1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
		光害対策ガイドラインの過半を適用、屋外広告物は非設置。					

	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	
--	---	------------------------	-----	------	---	--